

巻 頭 言

2学期初めに種を蒔き育てた「かぶ」を、毎日観察し続けた初等部1年生。双葉が一枚、双葉が2枚。続いて「ぎざぎざはっぱ」が出てきます。その後スケッチをするために間引いて抜いてみると、すでに根っこの部分に小さなかぶのふくらみがあるものとなしいものがあることに気がつきました。

自分が抜いたかぶの葉の枚数を数え、クラス全員で聞き合ってみると、葉が6枚のものはすべて根っこのかぶのふくらみがあり、4枚のものには一つもふくらみがなく、細い根っこのままでした。そして5枚の葉がついたものには、ふくらんだものとふくらんでいないものがあったのです。1年生は今回自分たちが育てたかぶは、5枚目の葉をつけると同時にふくらみ始めていたことを発見しました。

11月に行われた初等部の「畑の発表会」の中で、1年生の報告を通じてこの発見を知り、私もとてもびっくりしました。私はかぶが土の中でどのように育つかということ考えたこともありませんでした。

初等部では今回「勉強報告会」を発展させ、「土と育つ子どもたち」というテーマのもと、全学年の野菜作りやお米作りの実践について、教科の学習とのつながりの中で学びを深め、報告することにしました。より多くの生徒が主体的に取り組み、学んだ内容を自分の言葉で伝えることを目標に、ポスターセッションも取り入れました。この準備の中で、全学年が育てている作物の成長とその時々教科の学習との結びつきを年間カレンダーにまとめた「畑のカリキュラム」一覧（p24、25）が作られたことはうれしいことでした。

男子部女子部で行われた学業報告会においても、これまで以上に、どのように生徒自身の主体性を引き出すことができるかという点を重視し準備を進めました。テーマを生徒自身が選び、多学年で協働して取り組んだことに加え、会の運営にも多学年の生徒が関わりました。ステージ上での生き生きとした生徒の姿から、学びの成果を感じることができました。

「勉強報告会」「学業報告会」という機会に深められる探求的な学びを、今後、どのように日々の日常的な学びの中でよりよく継続的に実践してゆくか。学校を挙げて取り組みたい課題です。

2018年12月

学園長 高橋 和也